

4/1 (日) 14:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

2018J2 ■順位表 ■第6節終了

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	岡山	16p	+7	8	1
2	町田	12p	+4	10	6
3	水戸	11p	+5	9	4
4	山口	11p	+4	14	10
5	大分	11p	+4	11	7
6	新潟	11p	+4	7	3
7	横浜FC	11p	+2	7	5 H●
8	東京V	10p	+2	5	3
9	徳島	9p	+2	7	5
10	熊本	9p	-2	8	10
11	福岡	8p	0	7	7 A●
12	千葉	7p	+2	12	10 AO
13	大宮	7p	-1	8	9
	岐阜	7p	-1	8	9 --- ---
15	栃木	7p	-6	7	13 H△
16	金沢	6p	-1	6	7
17	山形	6p	-3	8	11
18	甲府	5p	-1	3	4
19	京都	5p	-4	5	9 A●
20	松本	4p	-2	6	8
21	愛媛	3p	-7	4	11 AO
22	讃岐	3p	-8	4	12

次回HomeGame

第9節 vs.徳島ヴォルティス
4/15 (日) 14:00
@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱東京UFJ銀行隣り)
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

Living in Woods

本庄工業株式会社
<http://www.honjo-woodream.com/>

湯麺 戸塚

店主：戸塚 哲也
瑞穂市穂積 1 5 9 6 - 4
11:30~14:00/18:00~21:00(L.O.20:50)
お休みは twitter: @Tanmen_Tozuka
でお知らせします

today's guest : **ヴァンフォーレ甲府**

2017 J1 7勝11分16敗 勝ち点32:16位

直近の対決と結果

2012/07/01
J2 - 22節@中銀スタ

甲府 0-0 岐阜

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	ヴァンフォーレ甲府
2018/03/25 J2 - 6節@ニスタ 愛媛 1-3 岐阜	2018/03/25 J2 - 6節@Cスタ 岡山 1-0 甲府
2018/03/21 J2 - 5節@長良川 岐阜 1-1 栃木	2018/03/21 J2 - 5節@中銀スタ 甲府 0-1 徳島
2018/03/17 J2 - 4節@西京極 京都 2-1 岐阜	2018/03/17 J2 - 4節@レベスタ 福岡 0-2 甲府

●小雨の降る中で迎えた3/21(祝)第5節・ホーム栃木戦。雨でピッチ状態が悪く、岐阜のパスサッカーが機能しない中、前半終盤のセットプレーで先制点を許してしまうFC岐阜。しかし、後半開始早々に迫力のある攻撃を仕掛け、#11古橋亨梧のゴールで同点に追いつくと、逆転すべく攻撃を続けるものの、決定力不足で結局は1-1のドローに終わった。続く中3日で迎えた3/25(日)第6節・アウェイ愛媛戦では、最下位・愛媛を相手に#7田中パウロ淳一と#11古橋亨梧が大活躍。#7田中パウロ淳一は自身キャリア初となるハットトリックを達成し、#11古橋亨梧も2アシスト。試合終盤にPKで1点を献上してしまったが、3-1で今季2勝目。この4月期3連戦を1勝1分1敗で終えた結果、順位を19位から13位に上げたFC岐阜。まだシーズンの7分の1、6試合を消化しただけなので、勝ち点差3で8位・東京Vが見える一方、20位・松本も迫っており、1試合の結果で簡単に順位が変動する状況なので油断はできない。また、これまでの今季J2は、対戦相手の妙もあると思われるが、2位・町田から最下位・愛媛までが勝ち点9に収まっている。そしてJ1降格チーム(新潟・大宮・甲府)が、それぞれ6位・13位・17位と苦しんでいる一方で、昨年の16位・町田や20位・山口の躍進が目立つなど、今季も大混戦の様相だ。

さて、今節の対戦相手はヴァンフォーレ甲府だ。2012年から5シーズンぶりにJ2を戦うことになり、当然ながらJ2優勝候補のひとつに挙げられているチームだが、今季はまだ対戦相手の組み合わせも理由と思われるが、第4節に福岡から初勝利を挙げたものの、徳島・岡山に連敗し、18位と調子が出せずに苦しんでいる。しかし、甲府との通算対戦成績は岐阜の0勝5分5敗・5得点15失点。ホーム戦でも0勝1分4敗・2得点8失点と非常に相性が悪い。2012年の対戦でも、5/27(日)第16節・ホーム戦で0-3、7/1(日)第22節・アウェイ戦も0-0。つまり、今節はこれまで相性の悪かった甲府に、FC岐阜が勝つチャンスとも言える。もちろん厳しい相手であることは間違いないが、2008年J2開幕戦で、FC岐阜のJ初ゴールそして初勝ち点を奪った相手に、10年越しで初勝利を挙げる可能性の高まった試合を逃したくはない。一方の甲府も、これまで最も下位の対戦相手、つまり我々に勝って調子を取り戻そうと意気込んでいるだろう。甲府は連敗しているため、大幅に選手を入れ替えてくることも予想されるが、要注意選手には、今季2得点の#10リンスと1得点の#9ジネイを挙げておきたい。この両ブラジル人FWが活躍することになると、本来の甲府の強さが発揮されることになるだろう。この甲府の攻撃陣を相手にする、岐阜のDF#15田森大己は06~08年に甲府に在籍。J初出場を果たした古巣を封じ込める活躍を見たいところだ。また、甲府には#8新井涼平(10~11年に岐阜在籍)、#26佐藤和弘(多治見市出身)が所属しており、彼らも“凱旋”試合に燃えているだろう。

前節の快勝で、徐々にチームに勢いが出てきている岐阜。若い選手たちも、自分たちのサッカーに自信を持ちはじめていることだろう。しかし、まだまだ不安定さも多く残している岐阜のサッカー。特に、6試合中5試合で先制点を許している守備面を改善しなければ、安定した試合運び・勝利を得ることは難しいし、順位も上がらないだろう。そして何より、まだ今季、ホーム・長良川では未勝利のまま。やはり、僕らはホームで勝つ選手たちの勇姿を見たい。そのために、今節も最後まで、選手の気持ちを奮い立たせて背中を後押しする拍手と声援(時には叱咤激励)を、僕らは送ろう。そして、エイプリルフルではない、FC岐阜の“開花宣言”を、満開の桜が咲き誇るホームスタジアム・岐阜メモリアルセンター長良川競技場で、選手たちと共に歓喜の声で叫ぼう。(ささたく)



「いらっやませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。
休:月曜日

投稿募集!!

gidaidohri@gmail.com

【第5節】岐阜 1-1 栃木

●学校は春休み・祝日とはいえ、年度末・3月下旬の水曜日。某企業カレンダー的には勤務日のデイゲーム。しかも春先の陽気から一気に冷え込んで、さらに小雨の降る中での試合。それでも、3,819人が来たっていうんだから（最近よく言うフレーズだけど）やっぱり10年前よりお客さん増えたよねえ…（しみじみ）。

さて、今年2年ぶりに対戦する栃木。2年前にJ2残留争いをしたチームという以上に、僕にとっては『色々』想いを持つてるチーム。そして、J3降格圏の有力候補。ここに負けるようでは、まだシーズン序盤とはいえ、今季の岐阜は“恒例の”J2残留争いを覚悟しなくてはならないかもしれない…僕はそんな想いを抱えていた。

雨が数日間降り続いた長良川のピッチは、水はけが悪く状態が良くない。まさかこの状態で今節もパスサッカーを…やるのね、今年も（苦笑）。そしてやはり、ボールが止まったり、あるいは足を滑らせたりして、うまくボールが繋がらない。それでも、何度か決定機を演出していく選手たち。うーむ、やはりJ3に落ちて上がってくると、こうなるのか…と僕は思いはじめていたのだけれど、若い岐阜の選手たちは少し油断したのか、それとも中3日の連戦で動きが鈍ったのか、なんだか軽いプレーに変わってしまって、そこで与えたFKで失点…雨とセットプレーなんて、下位チームが勝つ時の方程式じゃないですか…（溜息）。しかしハーフタイムに大木監督の雷が落ちたんでしょう（苦笑）、後半開始早々に、一気に呵成に攻めたてる岐阜の攻撃陣。そして#10ライザがキープして持ち上がりスルーパス。それを#11古橋亨梧がゴールネット上に叩き込んで同点弾！一気にボルテージの上がるスタジアム。その後も岐阜の時間帯が続くが、そこで決めきれないんだよねあ…（溜息）。しばらくすると、勢いが落ちた岐阜の攻撃に栃木の守備が対応できるようになり、そのまま一進一退を続けた結果、1-1のドローで試合終了。“負けられない戦い”に負けなかったという評価をできなくもないけれど、“勝たなければならない試合”に勝てなかった、そちらの想いの方が強く感じた。冷たい雨で冷えた身体を、自分の心がさらに冷やすような、少し後味の悪い試合だった。（ささたく）

●この時季の天候を表す四字熟語に『三寒四温』というのがありますが、そんなほのぼのとした表現とはかけ離れたコンディション。でも、雪が降らないだけマシだったと言うべきでしょうかね？いや～、それにしても、どうなることかと心配になった前半。特に、悠史やパウロのシュートが決まらなかったのを見て「点が入らないんじゃない？」と思ってたら、逆に混戦からキナイ……じゃない、ピンクが先制。ネットを揺らしてないのに、もしかしたらクリアしてくれた？とも思ったのにゴールってのが、さらに点が入らない雰囲気醸し出しているかのような感じだった（苦笑）。しかし、後半開始早々にキョーゴ！ニア上、ズドンッ！でも、ゴールだけじゃなく流れ全部が素晴らしかった。で、嵩にかかって攻めたんだけどね……。正直、今日の栃木相手にドローでは納得しかねる。甚だ尊大、不遜の極み。敬意のカケラもないのは重々承知だけど、順位が下のクラブが相手だと勝ち切れないのは持ちネタなのかな。なんて、エラそうなことを書きましたが本紙の京都戦についての投稿で「ゴール裏から後押しします！」とかエラそうなことを書いてた自分が、若干の体調不良があるとはいえ、メインスタンドで観戦してるんですから、何ともかんと……（苦笑）。ドローになったのはワタクシの責任、かもしれません。ゴメンナサイ。栃木は事前に聞いてたような終始5バックではなかったけれど、ウチのボールになると基本的には5バック。後半からはその前に3人並ぶんだけど、前線の2人との距離が空きすぎて、システム的には5-3-0-2みたいになってた。『雨の長良川』を意識したのか、それが元々の戦術なのかはわから

ないけど、攻撃は中盤省略の縦ポン。ペナルティ・エリア付近からの大黒サンはとっても怖い存在だけど、ボールを配球している分には怖くない。セットプレーとゴール前混戦だけが心配だった。なかなか、ボールの転がり方の判断がしづらい、相変わらずのピッチだったけど、それでも、いつもの？以前の？『雨の長良川』ほどではないことに気がついた後半はウチのサッカーが出来ていたような気がする。といっても、昨季のような大きなサイドチェンジが出来ないのなら、もっと勇気を持って縦のパス、クサビのパスを入れて縦横のバランスを取らないといけないような気がする。もっと、もっとチャレンジしてほしい。

あと、忘れちゃいけないのがライザ。ライザが、さらによくなった。千葉戦の初見時から、妙に目を引く動きを見せていたけど、雰囲気あるんだよね、ボールの受け方、出し方共に軽さと柔らかさを感じた。一本調子ではなく、ドリブル小僧でもない。周りとのコンビネーションの精度を、さらに高めてほしいね。

あ、大事なことを忘れてた！ビジョンの時計表示。デジタル表示が稼働してた。何年ぶりだろう！なんか、Jリーグのスタジアムみたいだったよ。次節からも、このまま稼働してくれることを祈ってます。それにしても、長良川でのバンザイ四唱はいつになるのか？でも、昨季も4月だったね。次節に期待してます！

（ぐん）

●うーん……一言で片づけてしまうと「絵に描いたような」J2下位同士の試合」ということになってしまう。岐阜がこの順位なのも、栃木がこの順位なのも。

雨はずっと降り続いていて、それでもかつての水田・長良川を知る者としてはピッチ・コンディションは維持されたと思う（スタッフの皆さん、ありがとうございます）。そんな環境で、岐阜はこの日はとにかくつないでナンボのサッカーは捨てた（みたい）。賢明な判断だと思う。

目に留まったのはライアン。とにかく周囲を活かす。古橋の同点弾になったラストパスも、とても優しいものだった。「自分が行く！」というタイプの難波とのコントラストは途中交代で面白く作用するかな。

（吉田鑄造）

【第6節】愛媛 1-3 岐阜

●“魔境・ニンスタ”…かつて、愛媛のホームスタジアムは、岐阜サポにそう呼ばれていた。2008年のJ2参入から2015年まで、ゴールを奪えず惨敗がグダグダな試合しか見られないスタジアム。交通の便も悪く、日程も遠征するのに厳しい日程ばかり。2016年、遂にその枷は外されて3-0で勝利したと思ったのに、昨年再び枷がはめられて0-2。さて、現在の愛媛は最下位とは言え、前節には新潟を倒しているチーム。両チームの監督が2年目となる今年対戦は、いったいどうなるのか…。

…と思ってたんですが、杞憂だったんですかね、この試合展開（苦笑）。いやもちろん、かなりヒヤヒヤするシーンがあったのは事実なんですけど、それでも、今シーズン6試合で最も、比較的安心して観られた試合だったような。やっぱ先制点を奪ったのが大きかったのかしら。先制点の#7パウロのコントロールシュートはお見事でした。2点目の#11古橋亨梧の、相手選手との接触を恐れず突進したカウンターは素晴らしかった。押し込んだ#7パウロも良かった。そしてトドメの3点目は、2点目の録画を再生しているかのようなようでした。今節、ニンスタは普段と違って芝に水を撒かなかつたらしいけど、ウチも撒かない方がいいんじゃないかしら（苦笑）。とはいえ、岐阜サポには『3点差は危険なスコア』という格言（？）が2015年からありまして（苦笑）。たしか、岐阜の選手がハットトリックを決めて、試合終了10分前まで相手を無失点に抑えてた試合があって、その後の記憶が飛んでて憶えてないん

ですが…愛媛にPKを献上してからは、なんだか僕はトラウマ症状が生まれて（苦笑）。だけど、それも杞憂だったみたいでしたね（笑）。PK 1点の献上は勿体なかったけれど、しっかり守りきり、勝ちきることのできた試合でした。

それにしても、今年の#7パウロの落ち着いていること…去年だったらゴール決めたら大騒ぎしていた感があるんだけど、インタビューも落ち着いた受け答えで（笑）。これが『結婚して落ち着く』という事なのかな？今後の活躍も楽しみです。（ささたく）

●ゴーマンかましますが、この試合はシャットアウトしてほしかった。その上で、あと1～2点取れた……なんてね。ないハズのPKだったかもしれないけど、そこに至らせた流れが問題。ビクトルの対応も若干難あり、かな？でも、アディショナルタイム突入直前の一対一をキッチリ止めてくれたから。アレで愛媛の勢いをせき止めたんだと思うがどうだろう？

約四半世紀にわたりJリーグを見てきて、3-0からひっくり返されたのを二度見てましてね。そのうちの一つは言わずと知れた、前半の内にハットトリックを達成したにもかかわらず、残り10分で逆転されるという悪夢のような内容。コレを現地で目の当たりにしたワケですが、なぜだか、愛媛戦の最中にはこれっぽっちも脳裏をよぎらなかつた……と思うんです。思うんですが、あの失点に腹が立ったのは、やっぱり、どこかにアノ時の傷跡が残っていたのかもしれない。アノ試合に名前を連ねた選手が、いったい何人残ってるんだ？って話なんですけど（苦笑）。それにしても愛媛の7番にはよく決められるなあ。ニスタでは必ず得点されてるような気がする。実際はそうじゃないんだけどね。メンドウな選手であることには違いない。来てくれないかな？ウチに。

とはいえ、呆気ないほどサクッと勝ちちゃったな～という印象。この相手には、初対戦以来「キモチワルイ」と形容したくなるような負け方が（ドロウにしても）多くて、ことにニスタではその印象が強いんですけどね。まあ、昨日の愛媛の最終ラインの出来が表してるように、未だチーム作りの道半ば、なんでしょう。順位が下の相手から勝ち点3という結果には納得ですが、本音をいえば、前々節からの下位を相手の3連戦を1勝1敗1分、勝ち点4には満足できません。少なくとも、今日の愛媛と前節の栃木から勝ち点6を取ってほしかった。次の対戦する時にも同じ状態とは思えないからね。これで3月の日程が終了。残留のためには3～10月の間は一月あたりで勝ち点5は必要。仲間の弁によれば、一節平均勝ち点1。とりあえず、ノルマ？はクリアしてくれた。ただ、クラブの目標からすれば、これでは到底足りない。目標を叶えるためにも、まずは長良川での今季初勝利を！全員でバンザイ四唱をやりたいです！！

（ぐん、）

●DAZNでの観戦だった（私用で別の場所に出掛けていたので新幹線の車中でスマホで見ていた。便利な時代になったもの）けれど、快勝だった。快勝だったけれど、それは岐阜のストロングポイント「左で仕掛けて右で決める」と愛媛のウィークポイント「3バックの外側（ウイングバックの後ろ）」がミクロン単位の高精度の歯車のようにピタッとハマったから、とも言える。2点目のきっかけになった、永島の後ろ向きのループ・パスにはびっくり。ものすごく集中して、愛媛の右WBの裏にコントロールして出している。明らかに「あそこを狙って」後ろ向きで出していた。

さて、今季の2勝の対戦相手、千葉と愛媛に共通しているのが、最終ラインの高さ（愛媛は千葉ほどではなかったにしろ）。そして、岐阜はそのスペースにシンプルに出して中で勝負して決める。つまり「手数をかけていない」。まだ6試合だけど、昨年と比べると岐阜のサッカーはシンプルになった、という印象がある。もちろん『(当社比)』はつくけれど（苦笑）。果たして、それは「大木サッカー・2年目の進化」の結果なのか？と訊かれると「違うとも言えるし、そうとも言える」としか答えられない。1年目の『特殊』なサッカーの純度を

上げる方向に進んでいないという意味では「違う」となり、『特殊』では適応できなかった部分を環境に順応させているという意味では「そう」になる。生物の進化には「退化」も含まれるように。

とはいえ、とにかくこれからだ。まだ、町田や大分といった『超』がつくりアリストとの対戦を経験していない。相性のいいサッカーをする相手からはきっちり勝ち点3を奪い、相性のよくないサッカーをする相手にどう戦うか。シーズンは始まったばかりだ。

（吉田铸造）

【ユース】 いよいよ「地域リーグ」へ

●我らがFC岐阜ユースU-18（以下FC岐阜ユース）は昨年高校世代の岐阜県内トップリーグであるG1リーグを優勝！そしてプリンスリーグ参入戦も見事突破して、2018年度は東海プリンスリーグに参戦します！！とってもとっても嬉しいですよ！！（感涙）

今年度の東海プリンスリーグの参加チームを見ると岐阜県からの帝京大可児や静岡県の藤枝東高校、清水桜が丘高校（旧市立清水商業）等10チームが参戦しています。ゆくゆくはFC岐阜ユースが日本の高校世代のトップリーグであるプレミアリーグを目指すにしても、まず今年度の目標はプリンスリーグ残留ですかね。

注目の初戦は4月7日（土）14時キックオフで静岡県御殿場市の時之栖にてJFAアカデミー福島U-18と対戦します。そして第2節の静岡学園高校戦は4月14日（土）に笠松町の岐阜県フットボールセンターにて13時キックオフです。トップチームの試合と重なっていませんので、是非応援に行ってください。

頑張れよ、応援しているからな！！FORZA！FC岐阜ユース！！

※試合会場・時間は変更される場合が有ります。必ずJFA（←これが嬉しい（笑））やチームの公式サイトで確認してください。（シュナ）

